

事業実施報告

開催日	令和5年12月16日（土）～17日（日）		
事業名	スポーツ交流合宿inテンパーク！バレーボール編		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	42名
対象	バレーボールを行っている女子中学生		
関係機関名	岡崎建設Owls、岩手県栄養士会、みちのくココ・コーラボトリング株式会社		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

岡崎建設Owlsらと連携し、バレーボールを通じて参加する青少年の交流を深め、仲間意識や連帯感を高めることを目的に1泊2日の日程で事業を実施した。

また、みちのくココ・コーラボトリング株式会社からは本事業の参加者へ飲料の提供を行っていただいた。

本事業には女子中学生42名が参加し、学年・所属する中学校を踏まえて、参加者を6チームに編成し、活動を行った。

1日目は午前中に青少年交流の家の職員を中心にバレーボールの準備運動を兼ねた交流活動（アドベンチャープログラム）を行い、参加者間の交流を促進した。午後は、岡崎建設Owlsの選手が各チームの指導を担当し、参加者の実態に合わせたバレーボールの指導を行った。その後、岡崎建設Owlsの選手の練習・ミニゲームを見学し、レベルの高いプレーを間近で体感した。夕食後にはスポーツ栄養士の資格を持つ講師による栄養講話を行い、バレーボールを行うにあたって重要な食事や、成長期に必要な栄養について学んだ。

2日目は6チームを3チームずつの2つのグループに分けて、リーグ戦とその結果を踏まえた順位決定戦を行った。特別ルールを設けることで練習の成果を十分に発揮できるよう工夫し、試合数を多く確保することで、2日間の活動の成果を確認することができた。

〔成果〕

- 参加者アンケートで事業全体に対する満足度について100%の参加者から「満足」「やや満足」の評価を得ることができた。

- 大会やテスト期間を避けて日程を決めたことで、募集定員の50名を超える申し込みがあった。
- 参加者からは「初めて会う人とチームを組んで楽しんでバレーができた」「バレーボールが上手になったし、バレーボールを通じて新しい友達ができた」という感想が多々寄せられるなど、バレーボールを通じて参加する青少年の交流を深めるという事業の狙いに沿った活動を行うことができた。

- 引率者から「試合中に他校の生徒同士がチーム内で声を掛け合う姿が印象的だった」との感想を頂いた。

〔課題〕

- インフルエンザ流行によって事業実施直前にキャンセルが多発してしまったため、感染症の流行時期も開催日程の検討材料とする。



「準備運動を兼ねた交流活動」



「チームビルディング」



「岡崎建設Owls選手練習見学」



「栄養講話」



「練習成果の確認ゲーム」

